



NIIGATA SEIRYO

祝 辞

新潟青陵大学、大学院にご入学の皆さん、おめでとうございます。そして、これまで愛情を注いでお育てになられたご家族をはじめ関係者の皆さま方、誠におめでとうございます。心からお慶び申し上げます。

サクラ前線も北上し、間もなく新潟も開花の日を迎えます。昨年元旦には能登半島沖地震が起き、新潟でも多くの家屋被害が出てしまいましたが、ようやく避難指示も全域で解除され、本当の春を迎えます。そんな時に入学される皆さんには心の底から「おめでとう！」と申し上げることができます。今日からは青陵のキャンパスで思い切り学び、クラブ活動などで存分に力を発揮することができます。皆さん、キャンパスライフを謳歌してください。

そして、私たち青陵学園の教職員も新年度を心待ちにしていました。それは、「ポスト・コロナ時代」に向けて培った青陵での学びを、皆さんと共に構築したいからです。その一つは、コロナ禍で大きく前進したオンライン教育を伸ばしつつ、リアルな体験や多様な経験を持つ人材との出会いを大切にする「ハイブリッド教育」の実践です。「青陵プロミス」で謳う、「自分だけの専門性を『活かす力』と、変わりゆく社会を『生きる力』」—この2つを身に付けてください。

青陵は地域との関係を大切にし、様々な社会課題を地域の方たちと共に解決を目指す「ソーシャルイノベーションのスクエア=広場」を目指しています。

例えば、こんな取り組みはどうでしょうか。もうお分かりのように青陵学園は日本海を望む松林に位置し、「日本一海に近い大学」です。この特徴を活かし、青陵が立地する西海岸の松林、浜辺の環境を地域の方や民間団体・自治体と連携して改善する取り組みに着手しました。学園近くの松林を「青陵の森」として整備し、多くの人々が訪れ、楽しめる、快適なゾーンにしていきます。また、青陵学園からほど近い新潟島の下町、新潟では「しもまち」と呼びますが、ここは湊町・新潟の原点というべき地域です。しかし、今は新潟市で最も高齢化が進んだ地域になっています。ここを舞台として地域の困りごとなどを把握し、その課題解決に青陵学園がお役に立てるようになれば、地域から「青陵があって良かった！」と喜んでいただけるでしょう。

6月には課題解決の司令塔であり総合窓口となる「青陵ソーシャルイノベーション推進機構」を学園内に開設します。皆さんには学園での学びと共に、本学の誇りでもあるボランティア活動も体験いただき、地域との絆を強くしてほしいと思います。そんな体験は、看護や介護、福祉、臨床心理、子ども発達などを学ぶ皆さんにとって貴重な財産になるでしょう。私たち教職員は「青陵プロミス・ミッション」の実現・推進に全力を挙げます。そのことをお誓い申し上げて、入学のお祝いの言葉といたします。これからよろしくお願ひします。

2025年4月2日

新潟青陵学園
理事長 篠田 昭